

ロジスティクス環境会議

第1回リバースロジスティクス調査委員会 議事録

・ 日 時：2004年1月29日(木) 14:00～17:00

・ 場 所：東京・港区 芝パークホテル 別館2F アイビー

・ 出席者：36名

・ 議 案：

- 1) リバースロジスティクス調査委員会の活動内容について
- 2) その他

・ 開 会

定刻、徳田事務局長により、開会が宣された。

・ 主催者挨拶

稲束専務理事より、会議の設立経緯ならびに設立趣旨と本会議の活動の中で、各メンバー間の合意形成のもとに、サプライチェーン、更にはリバースチェーンの最適化を支えるロジスティクスの概念、方向性、役割が明確となり、今後の社会、経済活動の中で有益な指針に繋がる提言や企業活動の中で役立つツール等が成果として作成されることを期待する。また、約3年の委員会活動で成果を出すためには、継続性のある議論を行うことが必要であり、委員会の出席メンバーは可能な限り同じ方々に参加いただきたい旨の挨拶が行われた。

・ 委員紹介

菅田委員長、新村副委員長、麦田副委員長の挨拶に引続き、各委員より自己紹介がなされた。

・ 設立後の経過報告について

- 1) ロジスティクス環境会議の概要について【資料1-1、資料1-2】

事務局より、資料1-1に基づき、ロジスティクス環境会議の設立経緯、資料1-2に基づき、ロジスティクス環境会議の概要と運営体制について説明が行われた後、確認がなされた。

- 2) ロジスティクス環境会議設立後の経過報告について

【資料2-1、資料2-2、資料3】

事務局より、資料2-1に基づき、ロジスティクス環境会議設立(2003年11月13日)後の企画運営委員会の開催および第1回企画運営委員会の議論に基づき行われた、各委員会の正副委員長ミーティングの開催経過の報告が行われた。また、資料2-2に基づき、第1期(2003年11月～2006年3月)に議題(合意形成)としたい項目と内容(例示)について説明が行われ、各委員会ならびに全メンバーが環境会議全体としての方針、アウトプット(成果)、目標等について認識を共有したうえで、今後の具体的な活動を推進したい旨の説明が行われた。

引続き、事務局より、資料3に基づき、環境会議の全メンバーに対して行われた、問題抽出アンケートの結果の報告が行われた。

・議事の経過

1. 議事

菅田委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) リバースロジスティクス推進委員会の活動内容について【資料3】

資料3に関する説明を行う前に、各メンバーの「リバースロジスティクス」の考え方や当委員会に対する質問、期待すること等に関して、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

- 【委員】問題抽出アンケートでも自治体の対応等が問題になっていることがわかる。リバースロジスティクスの視点から、各自治体の取組みを評価およびランキング化し、公表しても良いのではないか。
- 【委員】当委員会では名称のとおり、何らかの切り口で調査することがアウトプットの一つになるが、その中の事例から、現状や方向性等、何を引出すかが重要である。
- 【委員】リバースの分野は、商流の制約を受け難い領域にある。各社が共同でリバースロジスティクスの基盤を整備することが必要ではないか。
- 【委員】調査等を行う場合、部分的ではあるが各企業から発行されている環境報告書も参考になる。当委員会のなかで、勉強会を開いても良いのではないか。
- 【委員】業界の幾つかの企業でリユース、リサイクルを共同で行っている。その際に、共同で集荷したリユース、リサイクル品を各社の物流センターまで運ぶプロセスの構築が難しい。
- 【委員】リバースの分野は領域が広いため、当委員会としては実際に議論する範囲は限定した方が良い。しかし、マクロ的な視点として、リユース、リサイクルの対象となるものがどの程度あるのか、押さえておく必要があるのではないか。

以上のような意見交換の後、菅田委員長より、資料3に基づき、正副委員長ミーティングによる検討内容と委員会の活動等についての検討がなされた内容の報告がなされた後、以下のような意見交換がなされた。

- 【委員】輸送包装として、段ボールの回収、再利用が60%程度になってはいるが、小売業からの回収要請が依然として強い。関係者が積極的に知恵を出し合い、全体最適な仕組みを構築する必要がある。
- 【委員】各社のグリーン購入の現状や考え方について、情報収集を行いたい。
- 【委員】製品として一般消費者向けに提供している缶、ペットボトルの取組みは進んできている。今後は業務用として店舗に提供している冷蔵庫等が課題となるため、関係情報を収集し、対策を検討していきたい。
- 【委員】自動車等の部品を主に扱っている。一部メーカーの製品は包装を行わずに輸送し、無駄な廃棄物を出さないようにしているが、メーカーによって取組みに差がある。
- 【委員】自治体としてリサイクル施設を運営している。産業界の方々の意見を伺い施設の検証したい。是非、施設見学を行って欲しい。
- 【委員】111社にアンケート調査を行い、リバースロジスティクスの将来のあるべき姿を描きたい。

- 【委員】業界として各企業が協調することによって、リバースの分野で共同化を行っていくためにも、法規制は現場の実情に合わせて弾力的に行って欲しい。
- 【委員】現在の廃棄物処理法は排出する事業者、処理業者の現状とマッチしていない。但し、事業者の意識の問題も考慮しなければならない。
- 【委員】大学主催のコンソーシアムで業界横断的なE D I等を含めて共同化の仕組みを検討しているが上手くいかない。リバースの視点から業界が一体となった活動の必要性を感じている。
- 【委員】段ボールの回収しているが、小口で廃棄物として回収するのは法規制がある。動脈と静脈の仕組みを一体化していきたい。
- 【委員】リサイクルポートに自社が所在する県が指定されていない。北九州市のエコタウンを事例として勉強したい。
- 【委員】議論する際の用語の定義や基準が不明確なため、論点がわかりにくい。
- 【委員】飲食店向けの業務用機器の処分に困っている。優良な処理事業者の情報があれば欲しい。
- 【委員】動脈と静脈で輸送モード（機関）が分割している。リバースロジスティクスを構築していく際の課題である。

以上のような意見交換が行われた後、菅田委員長より、具体的な委員会活動内容等について検討を行うにあたり、当委員会の活動を通して、各メンバーが期待するアウトプット等を具体的に把握するため、アンケート調査を行い、1週間程度で回答いただくことが全会一致で了承された。

また、環境報告書をメンバー間で研究するため、各社の環境報告書をJILS事務局まで送付して欲しい旨の依頼がなされた。

2) その他

(1) 今後のスケジュールについて

第2回委員会は、次のとおり開催することが確認された。

日時：2004年3月5日（金）15：00～17：00

会場：芝パークホテル 本館2F 桜

(2) 今後の委員会運営について

メンバー間の情報交換を活発に行うため、各社の関係資料を委員会会場（専用テーブル）に置いていただくようにする。

お持ちいただく方は、事前に事務局までご連絡ください。

委員会終了後、資料は各社にてお持ち帰りください。

2. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、菅田委員長は閉会を宣した。

以上